内航海運の存在と重要性を知ってから・・

～ 教職員を対象に内航船舶と周南コンビナート見学クルーズ ～

山口運輸支局徳山庁舎では、山口県内航海運組合との共催により、１１月１０日（土）周南市内中学校に募集をしたところ教職員３０名の参加があり、内航海運の重要性を知って貰うために「海上からの内航船舶と周南コンビナートの見学クルーズ」を実施しました。

海事産業では、少子高齢化の影響から労働者の高齢化や人材不足が共通の課題であり、内航海運においても、若年船員の人材確保や育成が喫緊の課題となっております。

今回は、この課題解消に少しでも役立てればと考え、生徒と近い存在である教職員を対象にクルーズを通して、日常見聞きする機会の少ない「コンビナートと内航海運の関わり」について理解して貰い、この経験を子どもたちに伝えることで、将来、船員を職業の選択肢として考えて貰えるような企画としました。

内航海運の説明をする内航海運組合・畝河内氏

当日は、集合場所を間違えるなど若干のハプニングはありましたが、晴天に恵まれ絶好のクルーズ日和となり、１４時００分に旅客船桟橋を出航しました。

船内では、主催者挨拶の後、物流の大動脈としての内航海運業の役割等を内航海運組合から説明していただき、周南コンビナートを形成する各メーカー等の説明、さらに輸入量全国１位を誇る原塩などの貨物の取扱いに関すること、また、最近ではリサイクル資材の移入量が増加していることなど、地元のことであっても接する機会が少ないものと思われ、教職員の方々は熱心に聞き入っていました。

その後、（株）トクヤマ、日新製鋼（株）、東ソー（株）、周南バルクターミナル（株）、日本ゼオン（株）、出光石油化学（株）などの専用岸壁や内航船舶へ接近し、企業傘下の物流企業担当者から各工場の取り扱い貨物、施設、船舶等の概要などを説明していただき、教職員の方は日頃見慣れない海上からの景色を眺められていました。内航海運が重要な役割を果たし、日本の経済や産業を支えているこの街の姿を、脳裏に焼きつけて貰えたのではないでしょうか。

休憩などの合間では、「地元志向の子どももおり、就職するにはどうすればいいのでしょうか。」とか、船に関する質問では「船の前の方や横から水が出ているのは、何のためですか。」とか、素朴な質問をされていました。一般の人には、船や海運など知られていない事が多く、まだまだ周知活動が足らないことを痛感し、啓発を続けていく必要性を再認識しました。

絶好のクルーズ日和で海を眺める教職員の方々（休憩時）

お問い合わせは　中国運輸局 山口運輸支局徳山庁舎まで　TEL：０８３４－２１－０１８０

今回のクルーズでは、春から周南市教育委員会のご協力によって、校長会でのプレゼンから参加者募集などに至るまで、学校とのパイプ役を担っていただいたお陰で、円滑に実施する事が出来ました。

また、共催者の山口県内航海運組合には全面的にご協力いただき、コンビナートの企業説明には地元の物流企業である、株式会社トクヤマロジスティクス、東ソー物流株式会社、徳山海陸運送株式会社から担当者が休日にも関わらず参加してくださり、丁寧な説明をして貰う事が出来ました。

トクロジ担当者による概要説明①

船内の様子（教職員の方とスタッフ）

東ソー物流担当者による概要説明②

徳山海陸担当者による概要説明③

運輸局としても、「内航海運の現状と課題」と国交省海事局主要施策である「内航未来創造プラン」についても極々簡単に説明し、更には「運輸と観光行政」の小冊子を活用して、運輸局の業務についても僅かではありますが紹介しました。

加えて、授業において海運や船、物流などについての必要があれば、出前講座などの受け入れをしている旨の告知も行いました。

徳山庁舎では、今後とも機会を捉えて関係団体や教育機関などと連携し、若い世代に地域の海事産業について理解して貰い、興味や関心を持って貰うための活動に積極的に取り組んでいきます。